

人、資材、設備、エネルギーの最適組み合わせ 最適コストを導く「IEの応用編」

「人と設備の最適 組み合わせ」実践講座

日時 2018年 **3月 6日(火)** 10:00~17:00
(9:30受付開始、休憩 12:30~13:30)

主催  日刊工業新聞社

会場 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

受講料 **43,200円** (資料含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円



日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

【アクセス】

東京メトロ日比谷線『人形町駅』A2出口 徒歩3分、都営浅草線『人形町駅』A6出口 徒歩3分
東京メトロ半蔵門線『水天宮前駅』8番出口 徒歩4分

●申込方法

お申し込みはWeb (<http://corp.nikkan.co.jp/seminars/>) かFAXまたは郵送にて受け付けております。申込受付後、受講票と請求書をお送りいたします。受講料は銀行振込にて開催の前日までに必ずお支払いください。尚、お支払い済みの受講料はご返金できかねますので、ご了承ください。振込手数料は貴社でご負担ください。

口座名義

(株)日刊工業新聞社

りそな銀行	東京営業部	当座	656007
三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
みずほ銀行	九段支店	当座	21049
三菱東京UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申 込 先 日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail : j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講 申込書

3/6 人と設備の最適組み合わせ

お申し込みは **FAX 03-5644-7215**

■受講料：43,200円 (資料含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円 ※振込手数料は貴社にご負担ください。

会社名			業 種	
氏 名	フリガナ -----	部署・役職	T E L	
所在地	〒		F A X	
E-mail :				※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は チェックをしてください。 <input type="checkbox"/>

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。
※一度お振込みいただいた受講料につきましては、ご返金できかねますのでご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催にあたり

日本の工場は自動化することが目的のように人が設備に置き換わり、人件費の安い新興国に生産ラインを設置する際にも日本と同じ作り方をする。結果として日本の製造業の資本装備率は欧米と比較しても群を抜いて高いにもかかわらず、肝心の労働生産性は低いままである。これは、人、資材、設備、エネルギーの最適組み合わせを追求するIE技術の欠如による所が大きい。本セミナーは人と設備の最適組み合わせにIE技術を適用し生産性の高い最適生産を追求するものであり、「IE入門」編に続く「IEの応用」篇である。

本講座で学べること

- 設備能力を生かす改善手法
- 省人化の限度額の算出方法
- 人と設備の最適持ち台数の算出方法
- 最適な操業計画立案の仕方

講師

(株)MEマネジメントサービス マネジメントコンサルタント・公認会計士 **橋本 賢一 氏**

【略歴】 1969年中央大学商学部卒。1975年公認会計士第3次試験合格。公認会計士事務所勤務の後、日本能率協会コンサルティング事業部に入り原価革新や生産性向上のコンサルタントとして活躍。1985年(株)MEマネジメントサービスを設立、代表取締役となる。多くの製造業の生産現場でコスト革新に関するコンサルティングに携わり、豊富な経験を有するマネジメントコンサルタント。著書・共著に『初乗り610円にダメされるな!』(経済界)、『正しい意思決定のための経済性工学がわかる本』『よくわかる原価のしくみ』(以上、日本能率協会マネジメントセンター)、『社長! 経営が見えていますか?』(日本経済新聞社)、『よくわかるムダとりの本』『見える化でわかる売り値と買い値』『見える化でわかる間接・サービス部門の原価管理』『見える化でわかる限界利益と付加価値』(以上、日刊工業新聞社)などがある。

プログラム

第1章 人と設備の特性と能力を生かす —両者の能力を最大限に組み合わせる—

- 1-1 人と設備を組み合わせるIE技術
- 1-2 人と設備の特性を生かす
- 1-3 負荷=工程能力を持つ設備を導入する
- 1-4 基本機能だけでできる作業設計
- 1-5 最適組み合わせはコストで判断

■設備能力を生かす改善

第2章 人から設備自動化の優先順序 —省人化には優先度と限度がある—

- 2-1 自動化マップの作成
- 2-2 材料標準化と作業標準化の検討
- 2-3 効果を考えて自動化対象を絞り込む
- 2-4 自動化の優先順序の決定
- 2-5 設備投資の提案書を書く

■省人化の限度額

第3章 人・設備の組み合わせ改善 —人は多機能、設備は単機能—

- 3-1 個別工程の人・設備の最適組み合わせ
- 3-2 生産形態別の人・設備の組み合わせ
- 3-3 工程の繋ぎ方の原則とラインバランス
- 3-4 人と設備のつなぎ方の原則
- 3-5 設備と設備のつなぎ方の原則

■人と設備の最適持ち台数

第4章 人と設備の操業を管理する —人は変動費、設備は固定費—

- 4-1 人の標準の速さとバラツキ
- 4-2 人は変動費、設備は固定費
- 4-3 工数・設備効率管理のやり方
- 4-4 人と設備の負荷計画のやり方
- 4-5 人と設備を有効に活用する

■操業計画立案